

# LMcorsa Race Report

## Super GT 2018 Rd,3 Suzuka GT



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA



● M.NITTA  
● Y.NAKAYAMA

5月19日 | 天候:晴れ | コース:鈴鹿国際サーキット | 路面:ドライ



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA

### Qualifying Day Summary

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は前戦からの好調を持続させ公式練習では2番手タイムを記録  
予選Q1は吉本大樹選手のドライビングで突破し、予選Q2を担当した宮田莉朋選手が5番手を獲得する

### Qualifying Day

2006年より12年に渡ってSUPER GTのシリーズ戦として、8月に実施されてきた伝統の「鈴鹿1000km」。だが、2018年はGTマシンの世界統一戦として開催されることになったため、SUPER GTの鈴鹿ラウンドは5月に行なわれることになり、走行距離も通常のレースと同様の300kmに短縮された。装いも新たになったAUTOBACS SUPER GTシリーズの第3戦「SUZUKA GT 300km Fan Festival」は、5月19日(土)と20日(日)の二日間に掛けてスケジュールが組まれていて、19日に公式練習と予選、20日に決勝レースが実施される。



経験豊富なベテランドライバーの吉本大樹選手とスーパルーキー宮田莉朋選手のコンビで戦っているLM corsaは、開幕戦こそ決勝レースで17位に沈んでしまったものの、500kmのロングレースだった第2戦の富士スピードウェイラウンドでは、予選で6位となり、決勝レースはチームもドライバーもミスなく7位でフィニッシュ。今シーズンの初ポイントを獲得することとなった。

上り調子で挑むことになった第3戦の鈴鹿サーキットラウンドは、公式練習からSYNTIUM LMcorsa RC F GT3の本来のポテンシャルを発揮する。

## Qualifying Day

19日は、前夜に降った雨によって明け方はウエット路面が残っていたが、8時10分からスタートしたFIA-F4の予選でマシンが走行するとすぐに路面は乾き、ドライコンディションへと変化した。公式練習は予定通り9時に始まり、10時25分までがGT500クラスとGT300クラスの計44台の混走で、10時25分から35分の10分間がGT300クラスの専有走行となっている。

まず、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだのは第一ドライバーの吉本選手。持ち込みのセットアップがサーキットのコンディションと合っていることを確認すると、すぐさま鈴鹿サーキットラウンドのために用意されたタイヤテストに入る。タイムアタックをした訳ではないが、計測9周目には、従来のコースレコードを上回る1分57秒416をマークし、用意されたタイヤもコンディションなどに合っていることが実証された。公式練習の残り時間が30分を切るとSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に宮田選手が乗り込む。宮田選手は決勝レースを想定した走行テストを実施。1時間35分の公式練習で、吉本選手が23周、宮田選手が8週の計31周を走行し、ベストタイムは吉本選手がマークした1分57秒416で、GT300クラスの29台中2番手のタイムとなった。

公式練習の直後にはサーキットサファリが行なわれ、ここでは吉本選手から宮田選手へのドライバーチェンジを練習するなどのピットワークの確認作業も行なわれた。

### <予選>

サーキットサファリが終了してから約3時間のインターバルを経て、14時35分に予選Q1が開始された。吉本選手が乗り込んだSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、予選開始後もピットで待機してクリアな状態を見計らった。予選開始から5分が経過したところで、吉本選手がコースイン。2周に渡ってタイヤを温めてタイムアタックに入ったときに、2号車のSYNTIUM Apple loutsがクラッシュしたため、予選は中断となる。絶好のタイムアタックチャンスを失ってしまった吉本選手だが、中断中も冷静にピットで待機し、再開後にコースイン。タイヤのグリップはピークを越えていたが、1周のみのアタックで1分57秒438をマークし、予選Q1を8番手で突破することになった。

予選Q2は、GT500クラスの予選Q1を挟んで15時30分にスタート。予選Q1を突破した14台がポールポジションを目指すこととなった。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3のドライビングを託された宮田選手は、2周に渡りタイヤを温めるとともにタイムアタックに最適なポジションを探る。そして3周目にアタックを開始し、1分56秒461をマーク。前戦の富士スピードウェイラウンドを上回る5位を獲得することになった。

明日の決勝レースは300kmと短く、ライバル勢はタイヤ無交換などの戦略を採ってくる可能性もある。他車の戦略に惑わされることなくLMcorsaのチームプレーによって表彰台を狙う戦いを行なう。



## Team Comment

---



Director : 飯田 章

今回はマシンのセットアップもタイヤも良く、公式練習から好感触を得ることができました。前回の予選ではぶっつけ本番で6位を獲得しましたが、そのときよりも仕上がりは上回っています。予選Q1、Q2ともにドライバーが、確実に実力を発揮してくれたので、これ以上の結果は望めなかったと思います。チームとしては、士気が上がっているので、明日のレースは期待が持てます。戦略としては、GT3マシンの特性を活かして、チーム全員が着実に仕事をしてくれれば良い結果が残ると思います。



Driver : 吉本 大樹

鈴鹿サーキット用に用意してもらったタイヤがピンポイントに合っていたことと、マシンのセットアップも良かったので公式練習から調子良く走ることができました。予選はQ1を担当したのですが、タイムアタック中に赤旗になって最適なタイミングを失ってしまいました。それでもQ1を突破できるポテンシャルはあると思っていたので、その通りになりました。宮田選手がQ2を担当し5番手を獲得してくれたのですが、あれ以上のタイムは想像できないので実力を発揮してくれたと思います。決勝レースはとにかく前半で上位に出て、できれば貯金を作った状態で後半のスティントに繋げたレースをしたいです。



Driver : 宮田 莉朋

公式練習では決勝レースを想定した状況で走っていたので、予選シミュレーションは行ないませんでした。予選Q2では、それまでに履いたことがなかったニュータイヤでのアタックとなりましたが、行き過ぎることなく冷静にタイム計測ができたと思います。ほぼミスがなかったので全力を出し切ったと思いますが、本音ではコンマ1秒上がってれば3番手だったので悔しさもあります。今回はJAF-GT勢が速いと思っていましたが、我々も含めてGT3勢がトップ5に3台入っています。明日の決勝レースは、それぞれ戦略が異なると思いますが、持っている実力をすべて発揮して上位を狙いたいです。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**

96



● M.NITTA

● Y.NAKAYAMA

## Qualifying Day Summary

K-tunes RC F GT3は公式練習からトップタイムを記録し

予選Q1を新田守男選手が2番手で突破すると

予選Q2で中山雄一選手がコースレコードを樹立しポールポジションを獲得

## Qualifying Day

2006年より12年に渡ってSUPER GTのシリーズ戦として、8月に実施されてきた伝統の「鈴鹿1000km」。だが、2018年はGTマシンの世界統一戦として開催されることになったため、SUPER GTの鈴鹿ラウンドは5月に行なわれることになり、走行距離も通常のレースと同様の300kmに短縮された。装いも新たになったAUTOBACS SUPER GTシリーズの第3戦「SUZUKA GT 300km Fan Festival」は、5月19日（土）と20日（日）の二日間に掛けてスケジュールが組まれていて、19日に公式練習と予選、20日に決勝レースが実施される。



今シーズンからチーム体制を新たにして初参戦することになった「K-tunes Racing LM corsa」。地元開催となった開幕戦の岡山国際サーキットラウンドでは、予選で6位を獲得したものの決勝レースは14位でフィニッシュ。第2戦は予選が18位で、決勝レースが14位と本来の実力を発揮できないままである。

第3戦の舞台となる鈴鹿サーキットでは、4月16日と17日に第3回目の公式テストが実施されていて、K-tunes RC F GT3は、ウエットコンディションでトップタイム、ドライコンディションで2番手タイムと相性の良さをみせた。そのため、第3戦では本来のパフォーマンスをみせ、上位入賞することが期待されていた。



19日は、前夜に降った雨によって明け方はウエット路面が残っていたが、8時10分からスタートしたFIA-F4の予選でマシンが走行するとすぐに路面は乾き、ドライコンディションへと変化した。公式練習は予定通り9時に始まり、10時25分までがGT500クラスとGT300クラスの計44台による混走で、10時25分から35分の10分間がGT300クラスの専有走行となっている。

## Qualifying Day

公式練習のコースオープンとともに中山雄一選手が乗り込んだ K-tunes RC F GT3 は、快走をみせる。計測 5 周目には早くもコースレコードに迫る 1 分 57 秒 634 をマーク。その後は、ピットインとアウトを繰り返してセットアップの調整や持ち込まれたタイヤの確認を行なう。そんな状況のなかでも計測 16 周目に 1 分 57 秒 240 を記録し、GT300 クラスの従来のコースレコード 1 分 57 秒 543 を上回った。公式練習も残り 30 分を迎えると新田守男選手にドライバーをチェンジする。新田選手も 8 周を走行し 7 周目に 1 分 57 秒 938 をマーク。公式練習の結果は、中山選手によって記録されたタイムが GT300 クラスのトップとなった。

### <予選>

公式練習後に実施された 15 分間のサーキットサファリでは、新田選手が K-tunes RC F GT3 に乗り込み予選前の最終確認を終えた。サーキットサファリから約 3 時間を空けて、予定通りに 14 時 35 分から実施された予選 Q1。K-tunes RC F GT3 は、新田選手が再びステアリングを握ってコースイン。4 周に渡って念入りにタイヤに熱を入れて計測 5 周目にタイムアタックを行なう。ライバル勢も公式練習からタイムアップする中で、新田選手も 1 分 56 秒 965 までタイムアップさせ、予選 Q2 を 2 番手で通過した。

GT500 クラスの予選 Q1 を挟んで、15 時 30 分から予選 Q2 がスタート。K-tunes RC F GT3 に乗り込んだ中山雄一選手は、コースオープンとともにピットを離れる。2 周に渡ってタイヤに熱を入れるとともにクリアラップが取れるような位置取りを行ない、3 周目にアタックを実施。鈴鹿サーキットの 4 つのセクター全てで最速タイムをマークして、完璧なアタックラップを行ない、1 分 55 秒 531 のコースレコードを樹立するとともにポールポジションを獲得した。

RC F GT3 としても初のポールポジションを獲得した K-tunes Racing LM corsa。公式練習では安定したラップタイムで走行していたこともあり、明日の決勝レースは、ポールトゥウインが期待される。



## Team Comment

---



Director : 影山 正彦

開幕戦こそ予選で Q2 に進出できましたが、決勝レースでは 2 戦ともトップ 10 内に入ることができませんでした。そこで前戦が終了してからチームの懸命な作業によって大幅にセットアップを変更し、鈴鹿サーキットラウンドに臨みました。事前の公式テストでも相性が良いことは分かっていましたが、公式練習と予選ともに想像以上のタイムと結果が残せました。ドライバーを含めたチーム全員が確実な仕事をしたからこそ得られたポールポジションだと思います。チームの雰囲気は良く、モチベーションも高いので明日の決勝レースは、しっかりと結果を残したいです。



Driver : 新田 守男

公式練習で乗ったときは、バランスなどに若干の問題がありましたが、多少のアジャストで対応できる範囲でした。今回は、持ち込みの状態と用意されたタイヤがサーキットのコンディションに高い次元で合っているようです。予選は Q1 を担当したのですが、Q2 に進出さえできれば中山選手が好結果を出してくれると思っていたので、是が非でも突破する気持ちでした。そのため、少し慎重になりすぎたかもしれませんが、タイムとしては 2 番手だったので良かったです。明日の決勝レースは、JAF-GT 勢がタイヤ無交換などの戦略を採ると思いますが、どんな状況でも GT3 勢のトップにいられるようにしたいです。



Driver : 中山 雄一

昨年から RC F GT3 に乗っていますが、このマシンに初のポールポジションを与えられたことを嬉しく思います。今回は、公式練習から調子が良いことが感じられて、用意されたタイヤもコンディションにマッチしています。とくに予選のコンディションと合っていたようで、予選 Q2 では想像以上のタイムが出ました。2 番手をコンマ 5 秒以上離れたことも驚きです。明日の決勝レースはポールポジションからのスタートになりますが、回りの戦略やタイムに惑わされることなく、自分達のレースを着実にこなせればと思っています。



 M.NITTA

 Y.NAKAYAMA